

## 18春闘勝利！ 脱退策動やあらゆる妨害をはねのけ

要求満額獲得と「格差ベア」を永久的に根絶するために、全組合員が総決起する特別決議 ~~(案)~~

本部は、第44回定期中央委員会で18春闘方針を決定した。その内容は、①全組合員一律6,000円(定期昇給含まず)、②格差ベアを永久的に根絶するために、確立しているストライキ権のもと、あらゆる戦術行使をして全組合員とたたかい抜く、③グリーンスタッフ組合員の基本賃金4,000円引き上げ、エルダー組合員の基本賃金4,000円引き上げ、④企画部門で働く組合員の課員手当を要求する等である。東京地本は全組合員の総決起で、要求満額獲得に向け突き進むものである。

「格差ベア」の永久的根絶のたたかいは大きな山場を迎えている。2014年の賃上げで明らかになった「格差ベア」に反対するたたかいは、職場からのたたかいを4年間積み上げてきた。最後まで、手を緩めることなくたたかい抜こう！

2月6日の本部申13号交渉で確認されたことは、①格差ベア根絶を確認できなかったこと、②2012年の人事・賃金制度の導入時にベアの手法に関して労使議論を行なわなかったこと、③会社は所定昇給額を算出基礎とした「職責に応じた処遇・わかりやすさ・納得性・公平性」を踏まえベアを決定する考えは捨てていないこと、④「職責に応じた処遇は管理職手当等の増額によって実施する」とした議事録確認が守られていないこと等である。本部は会社に対し「スト権行使も含め、あらゆる戦術行使の手続きに入る」ことを通告した。そして、2月9日に開催した第44回定期中央委員会では格差ベア根絶のために「ストライキ権行使を含むあらゆる戦術を行使してたたかい抜く」方針を決定し、同日、中央闘争準備指令1号を発出した。

東京地本は、中央闘争準備指令に基づき「格差ベア永久的根絶」の要求貫徹のために、総対話による組合員との議論で、職場からのたたかいを強化している。組合員からは「格差ベアは職場が壊れる」「格差ベアは人間の否定であり、子供の養育や生活の維持・向上にまで職務・職責を反映させるのは企業として度を越している」「会社を良くするためにたたかう！」等、会社への怒りの声は高まり、運車職場では「指名ストライキ」を決意した組合員は1,200名を超えるまでに達している。たたかいの目的は「格差ベアの根絶」であり、戦術行使は要求を実現するための手段であることを明確にし、本部一本社間の闘争1号『「所定昇給額」を算出基礎にしないベースアップの実施等を求める緊急申し入れ』の要求貫徹を勝ち取るために職場からのたたかいを強化させよう！

2月12日、産経新聞が「JR東労組、スト検討」の記事を掲載した。東労組の要求を「定額ベア永続要求」と意図的に歪め「対立路線回帰？」などと、煽り立てる悪意に満ちた報道は許されるものではない。また、新聞報道と軌を一にして始まった本社幹部による職場巡回では「ストライキは労働組合の権利」と形式上前置きしながら、東労組が無理難題の要求をしているように喧伝し、東労組運動への妨害・介入をしている。さらに許されないのは、会社が職場や支社ビル・本社ビル内で労働組合の脱退策動を行っていることである。支社ビル内では、各部長が異例の総点呼や、朝礼・昼礼を開催し、JR東労組を名指しして「職場秩序を守る」「警察を呼ぶ」「命をかける」など、職責上の地位を利用してJR東労組からの脱退を促し、実行部隊としてグループリーダーや副課長が「面談」「脱退用紙の配布」などの脱退工作を行っている。さらには「長」による復命での脱退勧奨、現場長会議直後の脱退など、会社が介入した組合脱退策動であることが明らかになっている。このことは、憲法第28条で保障された労働者の団結権を侵害する不法行為であるばかりか、労働組合活動に対する支配・介入の不当労働行為である。JR東日本の「犯罪」を、すべての組合員・関係団体に明らかにし、怒りを込めて断固たる姿勢でたたかいていこう！

東京地本は、脱退策動を断じて許さず、あらゆる妨害には屈しない！18春闘勝利と格差ベアの永久的根絶を勝ち取るために全組合員でたたかい抜くものである。

以上、決議する。

2018年2月17日  
東日本旅客鉄道労働組合  
東京地方本部  
第41回定期地本委員会

**脱退策動を断じて許さず、あらゆる妨害には屈しない！18春闘勝利、格差ベアの永久的根絶するために、全組合員で総決起することを決議！**